特集

社会生活につながる国語

――新しい学習指導要領が目ざすもの

座談会

甲斐先生の国語教室

甲斐利恵子先生と、そのかつての教え子である大学三年生の皆さんに、中学校の国語の授業で記憶に残っていること、今、振り返って思うことなどについて語り合っていただきました。

新しい学習指導要領が告示されました。これからの社会を担う子どもたちが、社会や世界と関わり合って、自らの人生を切りひらいていく――そのために目ざされるのが、社会に開かれた教育課程です。

今号では、甲斐利恵子先生（港区立赤坂中学校教諭）の座談会、溝上慎一先生（京都大学教授）のインタビュー、実践提案を通して、社会生活につながるこれからの国語のあり方について考えます。

撮影　鈴木俊介

清水（しみず）さん
経済学を専攻し，社会福祉に関するゼミに所属。就職の志望先についてはこれから検討予定。

田上（たのうえ）さん
日本文学を専攻し，ゼミでは『源氏物語』に取り組む。中学校・高等学校の国語教員免許取得を目ざす。

甲斐利恵子（かいりえこ）先生
東京都港区立赤坂中学校教諭。中学校で国語を教えて35年。光村図書中学校『国語』教科書編集委員。

高田（たかだ）さん
子どもの心理学を専攻。ゼミでは，子どもの発達について研究中。玩具メーカーでの開発職を希望。

国語って、気持ちが開いていないと学べないんです。

国語は、気持ちを開いて学ぶ教科

甲斐　私が赤坂中学校に赴任したのは、みんなが二年生になった四月。そこから、この学年の国語を担当し始めたんだよね。

田上　私はもともと国語が好きだったし、甲斐先生のことも大好きでしたね。

高田　先生を最初に見たとき、「優しい人が来た！」って、テンションが上がった覚えがありますね。でも、実際に授業を受けて、甲斐先生はけっこう厳しい先生だってわかった。

清水　優しいんだけど、優しく怒る。それがちょっと怖かった（笑）。

高田　意外に、ちゃんとやらないと許してくれないの。

甲斐　高田さんは最初、提出物を出すのが苦手だったよね。でも、そこで叱ると、シャッターが下りちゃう。「無理です」「きっと大丈夫よ」なんてやり取りするうちに、だんだん「やれるんだ」っていう感じになっていった。

高田　なんとなく覚えているような……。

甲斐　そのうち、休み時間に廊下でぶつかって来たりするようになって。

高田　えっ！　スキンシップのつもりだったのかな。

清水　心を開いたのかな？

高田　ちょっとだけね（笑）。

甲斐　国語って、気持ちが開いていないと、学べない教科。「理解してもらっている」っていう信頼関係が、教師との間にないと力がつかないんです。この学年の生徒は、みんな素直ないい子たちだったから、最初の単元で、「もう大丈夫かな」って思った記憶がありますね。

「国語教室通信」は語彙を増やす場

甲斐　今日は、卒業以来ずっと私が預かっていた、みんなの「国語学習記録」（以降「学習記録」※1）を持ってきました。ちょっとめくってみて。「国語教室通信」（以降「通信」※2）を読む時間は、いつも盛り上がっていたよね。

田上　でも、「通信」の内容もテストの対象なので、それは嫌だったなあ。

甲斐　そう。「関心・意欲・態度」の問題としてね。日常に生きる語彙を身につけるには、教科書に載っている言葉だけでは足りない。「通信」を使って、あなたたちの語彙を増やしたかったの。

清水　「漢字コーナー」ってあったね。みんなで当て字の読み方を確認していく。

高田　漢字は嫌いだけどこれは楽しめた。「こんな言葉があるんだ！」って、知識になる。いつ使うかはわからないけど（笑）。

田上　本の紹介コーナーもあったよね。こんなにたくさんの本、先生はいつ読んでいたんですか？

甲斐　好きなことをする時間なら、無尽蔵にあるから。

田上　じゃあ、授業の準備もそうですか？　苦じゃないんですか？

▲３人の「国語学習記録」。

※1　一人一人の生徒が，自分が授業で使った手引きプリントやワークシート，授業記録ノートなどを全てとじ込んで１冊にしたプリント集。
※2　学習の見通しや言葉に関するコラムなどをまとめ，甲斐先生が月に２～４回程度，生徒に配布しているプリント。「漢字コーナー」「今週の本棚」などのコーナーがある。

甲斐　何の苦もないんです。仕事という以上に楽しみでやっているから。舞妓の小桃さんの記事を見つけたのもそんなとき。舞妓に憧れていた田上さんに読んでもらいたくて、「通信」で紹介しました。

田上　覚えています。その後、その「通信」で紹介された本も自分で買ったんです。

甲斐　実は「通信」って、私がみんなに語りたいものを語るための場でもあったのかもしれない。

友達の言葉のインパクト

清水　田上さんが書いた文章が、私の「学習記録」にもはさまっている。

甲斐　「みんなにも読んでもらいたい」と思ったものは、こうしてコピーして配っていたのね。

田上　私、甲斐先生の授業は、書くことが多いから好きだったんだよね。

清水　私は書くのがすごく苦手だったから、あんまり好きじゃなかったなあ。

甲斐　清水さんは、最初の頃、思いがうまく言葉になっていかなかったんだよね。

田上　私は、自分が何かしていないと授業がつまらないと思っていたから、書くことが好きだった。こんなふうに選んでもらえるのもうれしくて。

甲斐　書くことに本格的に取り組んだのは、「人と自然」っていう単元だったんじゃないかな。『センス・オブ・ワンダー』（レイチェル・カーソン）の一節を読んで、心に残る言葉とそれについての考えを書くの。

田上　タイトルは覚えているけど、内容は思い出せないですね……。

清水　「学習記録」には全員の文章が入っているね。みんなが書いたものに、私がそれぞれコメントを入れていったみたい。

甲斐　そう。全員の文章をとじた冊子を一人一冊配って、それぞれにコメントを書いてもらったの。そしてそれを、クラス内で回覧していって。

高田　そのコメント、記憶があります。

甲斐　こういう友達からのひと言は、インパクトがあったんじゃないですか？　みんな、黙々と読んでいたよね。

▼舞妓の小桃さんのことを取り上げた「通信」。

先生は褒めてくれるけど、友達は本当に思ったことを書く（笑）。

田上　先生からもらうコメントとはぜんぜん違いましたね。先生は確実に褒めてくれるけど、友達は本当に思ったことを書くから（笑）。

問いを立てるということ

田上　二年生の夏休み、甲斐先生と読書感想文を書いたのをよく覚えています。

高田　ああ、がんばっていたね。

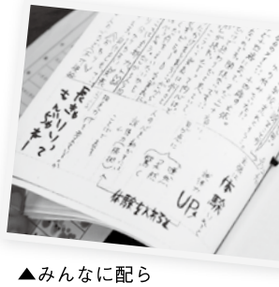
甲斐　夏休み前、短い作品を読んで、問いを立てて感想文を書く練習をしたのよね。

田上　そのとき初めて読書感想文の書き方がわかって。それで夏休みにがんばった。たぶん、中学校生活でいちばんがんばったことかもしれない。

清水　私はその練習、ぜんぜん参考にしていなかったなあ……。何を読んだの？

田上　『24人のビリー・ミリガン』（ダニエル・キイス）。自分の中で「これだ」と思って。あのとき考えたことは、その後ずっと、形を変えていろいろな場面で生きています。

「問いを立てることもできた。」って、あのとき自分で書いている！



▲みんなに配られた清水さんのノートのコピー。

甲斐　「これでいいんじゃない」って言っても、妥協しなかったよね。ずっと一人で問い続けていた。あのときは、「問いを立てる」っていうのがいかに大事なことかって伝えたかったんですけど、田上さん以外のみんなには伝わってはいなかったかな……。

清水　でも！　今見てみたら、三年生の「学習記録」の後書きに「問いを立てることもできた。と勝手に自分では思っている。」って書いてあるんです！

甲斐　そう！　それを見て、私、うれしくなりました。「最後に言ってくれた」って。大人になって問いを立てられるかどうかって、すごく大事なこと。その具体的な項目は伝えられなかったかもしれないけど、体験はして卒業できたっていうことかな。

新しい自分に出会う

高田　授業記録ノートって、授業の振り返りを書くんですよね。

甲斐　そう。事実を記録する習慣をつけるもの。だから、授業で学んだことを書く。感想はちょっとでいいのよ。

清水　そうだったんだ！　感想を書くんだと思っていた。

高田　私も。伝わっていなかった……。

清水　すごく苦手だったんです。感想が書けないから。

高田　でも、清水さんのノート、よく覚えているよ。上手にまとめていたよね。

甲斐　みんなに紹介したくて、コピーして配ったのよね。「長きゃいいってもんぢゃねー」って書いてあるね（笑）。

田上　すごくいいノート。清水さんも高田さんも、ノートを取るセンスがあるよ。

清水　楽しんで書いていたんじゃないかな。

甲斐　清水さんは、情報を視覚的に整理するのが本当に上手。二年生まで「面倒なことはいや」っていう感じだったのが、三年生で「やるぞ！」ってなって、ノートも変わったよね。

清水　三年生でマイナスからのスタートだったから、がんばって書き続けました。

甲斐　新しい自分に出会っていたよね。

友達と学んでよかった

甲斐　二年生の古典の単元は覚えていないですか？　ちょっと高度なことに挑戦した「つなげて読む　つなげて考える」っていう単元。二つの古典作品に共通するテーマについて、グループで話し合ったんだけど。

清水・高田・田上　やったような……。

甲斐　教師としては印象的でも、みんなにとってはそうでもなかったりするんですね。

高田　グループでの話し合いといえば、S君とやったことしか覚えていないです。「『形』を考える」っていう単元で。

甲斐　「形」（菊池 寛）を読んで、それについて話し合った単元ですね。

田上　S君と、私たち三人のグループだったのか。ぜんぜん思い出せない。

清水　（「学習記録」を見て）ちゃんと話し合っているね。

高田　一人ずつ意見を言ったんだ。S君も、ちゃんと意見を言っているね。

甲斐　話し合いで出た情報をどう取捨選択して、どんな順序で報告するかを考えるっていう。

高田　S君って、話しかけにくい雰囲気の子だったから、普通にいっしょに話し合って分かち合えたことがなんか感動で。それで印象に残っているんだと思います。

甲斐　S君も、うれしかったと思いますよ。ノートに書いてあったもの。教師と気持ちがつながるっていうのも大事だけれど、実は、子どもどうしで尊敬し合うっていうのが、いちばん学習に励みが出るんですよね。「友達と学んでよかった」っていうのが、力になっていくんです。

高田　私は、国語って、一人で考えて一人で勉強するものだって、ずっと思っていたんです。でも、甲斐先生の授業では、他の人の考えも知る、他の人の考えを受け入れるっていう経験をしましたね。

甲斐　そうだね。そういう授業がしたかったんだと思います。今日は、そんな先生が授業に込めていた思いを知りました。なんとなく受けていた授業だったけれど、振り返ると、力がついていたって思えることもあるし、そうではないこともありますね。私は、教師になろうかどうか迷っているので、自分が生徒だったときの視点を思い出せたのがいい体験でした。

甲斐　何を学び取っているかは、本当に人それぞれ。教師というのは、自分の思い入れや価値観だけで、結果まで期待できる仕事じゃないって、今日は痛感しました。生徒が後になって「あの頃がんばったな」「あの子の意見はおもしろかった」って思い出してくれれば、教師としては上々なのかもしれない。「他者によって自分が豊かになる」。学校教育でなければできない経験ですよね。それをみんなが味わってくれていたことがわかって、とってもうれしかったです。今日はありがとうございました。

他者によって自分が豊かになる

国語は、一人で勉強するものだって、ずっと思っていた。

▼単元「『形』を考える」の話し合いのメモ。